

令和 2 年 度

学 校 評 価 計 画 表

奈 良 県 立 吉 野 高 等 学 校

教育目標		校訓の至誠・進取・剛健・親和を旨として、人権を尊重し民主的で平和な社会と新しい文化の創造に努める人間を育てる。				総合評価
経営方針		<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒一人一人の夢と希望の実現に向け、確かな学力を育むと共に、達成感と成就感を伴う多くの成功体験を保証することで、豊かな社会性と人間性をもつ生徒を育てる。 ○ 実学教育を推進し、生徒自らの未来を自分で切り拓くため、将来にわたり学習する意欲と態度を培い、習得した専門技術を生かして地域社会の発展や産業の振興に貢献するとともに高い自己有用感や自己肯定感を持つ人材を育てる。 ○ 規律ある生活を通して、規範意識の育成や基本的な生活態度の涵養を図り、心身ともに健康で忍耐力のあるたくましい生徒を育てる。 				
令和元年度の成果と課題		本年度重点目標		具体的目標		
<p>昨年にも増して地域との連携事業が盛んであった。例年の活動に加え、地元や県からの依頼を受けての活動を活発に行い、多くのマスコミに取り上げられた。各種のコンテストでも好成績を修め、生徒の自己有用感の醸成を図れた。より活力のある学校づくりを目指したいが、オーバーワークに陥らないよう、活動の精選も必要である。</p>		1 校外での挨拶、マナー等、規範意識の向上に努め、高校生として社会に通用する素養を身に付ける。		学校行事への主体的な参加、部活動、ボランティア等社会参画活動の推進を通して、生徒の規範意識を高め、自律する力を養う。		
		2 コミュニケーション力の充実を図り、地域と学校の活性化に努め、自己有用感・自己肯定感溢れる人材を育成する。		課題研究発表会等で、自己の考えや調査結果を発信する力を養い、専門知識と技術を生かしながら、地域で活躍する有意な人材を育成する。		
		3 生徒に自分の進路を意識させることで、学ぶ意欲を引き出し、自ら進路を実現できる力を養う。		「進路学習プログラム」を基軸とした取組を確実に実施し、生徒が希望する進路の実現を図る。		
		4 地元地域の異校種間の連携を密にとり、地域に信頼される学校づくりを推進する。		三学科がもつ特徴的な教育活動を通して、地域コミュニティとしての役割を果たすと共に、「産・官・学の連携」をより一層進める。		
評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
業務改善 (職員の働き方)	環境整備・業務の改善を推進し、職員の健康に配慮した働きやすい職場作りを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 勤務時間管理システムを活用し、職員の超勤の把握に努め、必要に応じて指導・助言を行う。 ● 健康診断・ストレスチェック等の取組を推進し、健康障害等に関する相談体制を整備する。 ○ 学校が行わなければならない業務と、そうでなくても良い業務の選別に努め、週休日の確保に努める。 ● 外部からの依頼案件の精選に努め、オーバーワークにならないように努める。 				
式典・渉外等	学校・家庭・地域社会が相互に協力して、開かれた学校づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 式典・行事等において、いろいろな意見を取り入れ細部にわたって改善を重ねる。 ● 分掌・学年・学科間の連携を密にし情報収集に努める。 				
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 奈良南高校としてのオープンスクールの実施内容及び実施方法を大淀高校と連携しながら充実したものにする。 				
	渉外活動の更なる充実を図り、魅	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校訪問・オープンスクール等の内容を上記同様、新た 				

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・ 分析) 及び改善方策
	力ある学校づくりを推進する。	な方法を模索し、よりよい活動方法を考える。				
	育友会活動の活性化を図る。	○役員間の連携や共通認識をより一層深め、活動を活性化させると共に、各行事への協力体制の強化を図る。また、来年度以降吉野高・大淀高・奈良南高の育友会のあり方を検討する。				
学習指導	新学習指導要領に沿って学習の更なる充実を図る。	○基礎学力の向上を重点におき、これからの時代に求められる資質を持った社会人として活躍できるよう、教育活動を展開する。 ●到達度別学級編制などを行うことで、綿密に基礎学力の定着を図る。授業内アンケートを実施し、生徒の満足度90%を目指す。				
	専門学科での特色を活かした授業展開を目指す。	○2・3年次における各専門科での授業において、課題研究を中心に専門性の高い内容に取り組む。 ●生徒の興味・関心に応じ、授業内容を精査することで、専門知識を生かした進路実現の達成率向上を目指す。				
生徒指導	高校生として自覚をもち、規律ある行動ができる生徒を育成する	○さらなる特別指導の減少 ●特別指導、10件以下を目指す。規範意識を高める集会等を各学期1回以上行い、生徒の所属意識を高める。				
		○通学マナーのさらなる向上 ●生徒の実情に合わせて乗車指導、ターミナル指導、地域指導等を展開する。				
	カウンセリングの充実	○生徒の心の相談にあたる。 ●学期始めに相談日を設置し、生徒が学習に意欲をもつように支援する。				
	生徒会活動の充実	○生徒主体に各行事のさらなる活性化を図る。 ●月に1回以上、生徒会と教員が会議を持ち、各行事の取組の見直しを図る。				

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
		<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会プリントを配布する。 ●月毎に会議等で目標を定め、各HRに掲示して連絡し、活動を促す。 				
進路指導・キャリア教育	生徒に自分の進路を意識させ、自ら進路を実現できる力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ○性格・適性チェック・シートを実施し、自らの性格の特徴を把握し、自分の進む方向・指針をしっかりと見極める。 ●1、2学年に実施する。 				
		<ul style="list-style-type: none"> ○「進路の手引き」を発行する。 ●全校生徒、職員に配布する。 				
		<ul style="list-style-type: none"> ○進路に関する行事を外部講師を迎え、実施する。 ●3学年の「就職セミナー」にも外部講師を依頼する。 				
	社会人として必要なマナー、常識を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ○3学年の「就職セミナー」や面接指導を通して、マナー、挨拶、服装、心構え等の向上を図る。 ●学校推薦による就職内定率を100%にする。 				
	進路先の学校、事業所との連携を密にとり、社会で求められる人材と生徒の個性の把握に努め、信頼され、期待される学校づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染拡大防止のため、電話によるアプローチをする。 ●その際、各事業所の意見や要望を十分に吸収したうえで、求められる人物像の把握と、本校の教育内容の広報に努める。 				
人権教育	生徒の豊かな人間性の育成のため、人権教育HRの内容を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒たちが自ら主体的に考えることができるような内容を心がける。 ●ワークショップを含め、生徒参加型の人権HRを年2回実施する。 				
		<ul style="list-style-type: none"> ○人権HRの内容を精選し事前打ち合わせおよび事後研修を充実させる。 ●人権教育学習資料集「なかまとともに」を活用するとともに、人権HRの進め方を見直し、指導案を改善する。 ●毎月11日の人権を確かめ合う日の取り組みを企画し、人権HRの時間のみにとどまらず、普段から人権意識を高めることができるよう働きかける。 				

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
	生徒の多様化を踏まえ、すべての生徒が安心して学校生活を送れるよう柔軟な配慮をする。	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校・保護者との連携を密にし、個々の生徒の個性に即した支援・指導を行う。 ●個別の教育支援計画を作成し職員が共通理解のもと指導にあたる。 ●わかりやすい奨学金の案内を作成し、確実に保護者に伝えるよう連絡の方法を工夫する。 						
	教職員自らの人権意識と様々な課題に対する実践力を高めるとともに、保護者との連携を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ○職員研修のテーマを吟味し、より生徒の実態に即した研修を企画するとともに、諸団体実施の講演会等に積極的に参加する。 ●職員全体研修を年2回実施し、保護者とともに参加できる研修会等へ年1回は参加する。 						
文化図書	文化祭の一層の充実と活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○文化祭実行委員会が中心となり、生徒が主体となって企画・運営等を行う文化祭にする。また、テーマ等を早期に決め、クラス等の発表がテーマに沿ったものになるようにする。 ●文化祭のアンケートを行い、満足度80%以上を目指す。 						
		<ul style="list-style-type: none"> ○学習の成果や取組の発表の場となるようにする。また、各科の取組等が一年生の進路選択の参考にできる機会になるようにする。 ●課題研究の発表の場ではなく、各科の取組や特色の発表とする。 						
		<ul style="list-style-type: none"> ○近隣地域への公開を継続し、日頃の取組を公開することで開かれた学校作りの充実と本校への理解発展に努める。近隣の方々への案内を早く行い、参加しやすいようにする。 ●訪問者の数を前年度比150%を目指す。 						
	図書室の有効利用促進をはかる。	<ul style="list-style-type: none"> ○図書室の環境整備を行い、図書の閲覧、貸し出しができるようにする。 ●夏期休業中の課題にある読書感想文に合わせて、第一学期末には開館する。 						

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
		<ul style="list-style-type: none"> ○「図書館だより」を発行し、図書に関する広報活動を積極的に行うとともに、読書の啓発を行う。 ●「図書館だより」を年2回以上発行する。 ○蔵書点検を行う。 					
	読書の楽しさや素晴らしさを認識させ、本を読む習慣を身につけさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が読書に親しみ、楽しさを体感できる取組を推進し、生徒の読書意欲の向上を目指す。 ●全校一斉の読書会を2回実施する。 					
保健体育部	<p>体育の授業や行事を通して専門的技術、体力、コミュニケーション能力の向上を目指す。また、生徒の主体性を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○チーム競技、持久走を強化し体力の向上を目的とした運動を毎回の授業で展開する。 ●生徒に応じた設定タイムや専門競技を行い、仲間との連携、個々の体力の向上を図り、達成率100%を目指す。 					
		<ul style="list-style-type: none"> ○生徒個々の体力に応じた目標を設定し、体力テストの結果の向上を図る。 ●本校の体力テストの平均値を前年度比で県及び全国の平均値に肩を並べる。 					
		<ul style="list-style-type: none"> ○授業の準備体操や集団行動、授業の準備・片付け等を生徒主体で行うよう徹底する。また、体育大会やマラソン大会の行事で生徒が主体的に活動できるように運営する。 ●達成率100%を目指す。 					
	生徒に健康管理を行う力を身に付けさせるとともに日常生活で役に立つ知識を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ○保健の授業で健康管理という観点に重点を置き、それぞれの分野の授業を展開する。 ●達成率100%を目指す。 ○食育についてのHRや「保健だより」での食事指導、保健の授業を通して食に関する意識を高め、食育を推進する。 ●生徒の朝食摂取率90%を目指す。 					
環境整備	学校内外を美しく保つ。	<ul style="list-style-type: none"> ○清掃美化活動を習慣化させる。 ●担任と清掃監督の教員が連携 					

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
		をとり毎日清掃を実施する。 行事の前後に美化委員を中心に全校生徒で大掃除を行う。 ○清掃活動を通して地域社会に貢献する。 ●生徒全員が年間2回以上通学路を清掃する。					
	備品や設備の充実にを図る。	○教室の備品や清掃用具などを管理する。 ●年間1回以上清掃用具や備品の点検、補充を行う。 暖房器具の維持管理や適切な給油計画を立てる。					
	安全管理に努める。	○生徒の安全確保に努める。 ●防災・避難訓練を年間2回実施する。					
		○緊急時に救命処置や応急手当が行える知識と技術を習得させる。 ●普通救命講習を2年生全員受講させる。					
建築工学科	生徒の希望する進路実現に向けた取組を進める。	○早期から資格取得・検定試験に対する意識を芽生えさせ、受検者を増やし、取得に向けた対策講座等の充実を図る。 ●各種資格取得・検定合格率60%以上を目指し、取得生徒数を増加させる。					
		○生徒一人一人の進路実現に対する意識を高める。 ●インターンシップや体験授業等を通じて建築関連の進路先に興味をもたせる取組の充実を図る。					
	学科の特色を生かした地域貢献を進める。	○さまざまな機会を通して地域社会や保護者を含めた小・中学生等に建築工学科ならではの支援活動を行う。 ●地元中学生を対象に「吉中友灯工房」、地域住民対象に「ものづくり教室」を開催する。					
		○「地域と共にある学校づくり」を推進する。 ●地域イベントへの参加や営繕に関する建築の専門知識・技術を生かし地域に還元する。					

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
土木工学科	専門分野の知識と技術を習得させる。	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本を重視した内容を精選し、生徒の実態に即した授業内容の工夫を行う。また、積極的に資格取得に取組ませる。 ●小型車両系建設機械9名以上、小型フォークリフト9名以上の合格者を目指す。 						
	専門分野に興味関心を持たせ、土木技術者としてのやりがいや魅力を持たせる。	<ul style="list-style-type: none"> ○専門的な技術を体験させ、各種大会に積極的に参加させる。 ●社会人講師による講座を5時間以上設け、実技指導を受けさせる。「コンクリートカーン競技会」及び「橋梁模型コンテスト」に参加し、上位入賞を目指す。 						
	安全教育の徹底を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○実習や実験などで事故0件、器具の破損0件を目指す。 ●危険を伴う作業(パワーショベル・木工作等)では、複数の教員で安全指導にあたる。また、器具・工具の正しい使い方を教え、大切に使用させる。 						
森林科学科	農業クラブ活動の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ○プロジェクト・意見発表会等各種競技会に向け、取組を強化し、活動の充実と発展を図る。 ●全クラブ員が年間を通じた運営に参加し、奈良県学校農業クラブ連盟大会及び近畿大会の成功を目指す。 						
		<ul style="list-style-type: none"> ○交通安全啓発グッズやハボタン配布等のボランティア活動に積極的に参加し、社会性を培う。 ●各学期に1回以上の活動を実施し、地域に貢献する。 						
	学科の特色を生かした地域貢献を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ○吉野の魅力を本校から発信し、地域の発展に貢献する。 ●森林科学科の更なる活発な活動を図り、地域の魅力的な情報を全国に発信する。 						
		<ul style="list-style-type: none"> ○吉野林業活性化を目指し、作業道整備に向けた学習活動を充実させる。 ●演習林や学校近隣の森林整備 						

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
第1学年	基本的な生活習慣を身につけさせ、自立した高校生活を確立させる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学年やクラスの目標をもとに、欠席や遅刻、早退のない生活習慣を定着させる。 ● 出席率90パーセント以上を目指す。 					
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 「集団生活の大切さ」を認識させ、互いに高め合える、より良い人間関係を築く。 ● 各学期に1回以上、学年集会を実施する。 					
	学習意欲を向上させ、将来の進路決定に向けた意識を高めさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業への遅刻や欠席を無くし、授業に集中できる環境を整える。 ● 教室移動時の遅刻を無くす。 					
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 「学科選択」を常に意識させ、教室での授業だけでなく、実習や実技、定期考査に全力で取り組む。 ● 定期考査の出席率100パーセントを目指す。 					
	けじめある学校生活を確立し、部活動やボランティア活動への参加を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 吉野高校生として節度ある行動を定着させ、責任を持たせる。 ● 生徒指導上の問題行動を対前年度比90%以下を目指す。 					
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 部活動顧問や生徒会顧問と連携を図り、部活動や生徒会活動、ボランティア活動への参加を推進し、特別活動に意欲的に取り組める生徒を育てる。 ● 生徒の部活動およびボランティア活動への参加率30パーセント以上を目指す。 					
第2学年	中核学年としての自覚をもち、責任ある言動のとれる生徒を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第2学年としての自覚をもち、けじめある生活態度を身につけさせる。 ● 欠席・遅刻の回数を前年度比50%以下に減少させる。 					
		<ul style="list-style-type: none"> ○ ルールを厳守する、挨拶や適切な言葉づかいができる、身だしなみを整えるなど、自らを律する姿勢や態度を育成する。 ● 校門指導や授業の開始時に服 					

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
		<p>装の点検を行い、学校生活にふさわしい生活態度を徹底させる。</p>					
	<p>進路実現に向けた取組を理解させ、学力の向上を目指す。</p>	<p>○日々の授業を大切にすることが進路の実現に結びつくことを理解させ、将来に向けて意欲的に取組む姿勢を育む。 ●早期に進路目標を決定させ、インターンシップや企業見学の参加を積極的に奨励する。</p>					
		<p>○「進路学習プログラム」に従って、第2学年としての取組を推進する。 ●積極的に資格取得に取組むとともに、基礎講座に積極的に参加させる。</p>					
	<p>修学旅行や学校行事等の課外活動に意欲的に取組む意欲と態度を育成する。</p>	<p>○主体的に修学旅行に参加することで、充実した活動になるよう、意識の醸成に努める。 ●生徒の積極的な参加を促し、修学旅行満足度80%以上を目指す。</p> <p>○学校行事への積極的な参加を促し、集団での自分の役割を自覚した行動ができる生徒を育てる。 ●学年全体で各行事に積極的に参加し、参加率100%を目指す。</p>					
<p>第3学年</p>	<p>生徒の進路意識を高め、社会に貢献できる生徒を育成する。</p>	<p>○一般常識、面接、筆記、小論文等の指導を充実させ、進路実現を図る。 ●進路決定率100%を目指す。</p> <p>○挨拶やマナー等、規範意識を向上させるとともに、欠席や遅刻のない習慣を定着させる。 ●出席率95%以上、特別指導0件を目指す。</p>					
	<p>最終学年として学校行事や特別活動等に、主体的に取組む姿勢と態度を育成する。</p>	<p>○学校行事の企画・運営に積極的に参加させ、主体的に取組む姿勢を身に付けさせる。 ●吉野高校での生活満足度100%を目指す。</p>					